

ピース・ウイング長崎 会報

へいわ

101号



■財団法人長崎平和推進協会 〒852-8117 長崎市平野町7番8号 ■電話 (095)844-9922 FAX (095)814-0056
<http://www.peace-wing-n.or.jp>



春の訪れを教えてくれる梅の花。今、先を争うように咲き誇っています。
会報「へいわ」は、今年も皆様と事務局を結ぶ大きなパイプとしてお届けできるように発行に力を注いでまいります。(2月23日、松森天満宮にて)

平和な未来のために…第2期 青少年ピースボランティア

毎月1回、原爆資料館に集まって平和について学んでいる若者たちがいます。その名も「青少年ピースボランティア」。「ピーボ」の愛称で親しまれています。

平成14年度から始まったこのプログラム。青少年が幅広いテーマで平和学習を行い、イベント等でのボランティア活動に参加することによって、平和な社会づくりに貢献する意義を見出すきっかけとするためのもので、今年度が2期目になります。今回はその活動をのぞいてみました。

第5回 デイバート(討論)

12月20日(土)

「日本はアメリカの核の傘から脱却すべきである」というテーマについて、デイバートを行いました。



デイバートとは肯定と否定の2組に分かれてする討論のことを言い、ピースボランティア11名が予め脱却「すべき」という肯定側と「すべきでない」という否定側とにグループ分けされています。ちなみに、このグループ分け、その人自身の意見や考えとはまったく関係なく機械的に分けられているのです。果たして客観的なデータを元に相手を打ち負かすことができるのか。

それでは討論開始です。脱却すべきという肯定側は、「沖縄米軍基地での犯罪が無くならないのは核の傘に入っているためである」、「イラク戦争などの時、日本の支援金に対しての見返りが無かった」などの論点で攻めます。一方脱却すべきでないという否定側は、「日米関係の悪化」、「日本の防衛費の増大による軍事大国化の危険」などの論点です。さて、これにそれぞれが知恵とデータを持ち寄って反論をしていきます。限られた時間でそれぞれ頭を悩ませながらの応戦が続きます。そして、結果発表。1時間に及ぶ討論の結果、否定側のやや勝利となりました。しかし、「核の傘」についての認識がどちらもできていなかったため、実質的にはあまり差はない残念な結果となりました。最後にそれぞれ感想を発表し、まとめとして平和推進室の永田主幹が「核の傘」について解説してくださいました。日本の現状と核の傘について理解を深め、今回のピースボランティアは幕を閉じました。



▲青少年ピースフォーラムでのボランティア

今回のデイバートは難しいテーマであったこともあり、おのおのがもっと勉強する必要性を感じたようでした。



第6回 世代間トーク

1月17日(土)

今回の企画はいろいろな世代を交えての語り合いです。

現在は核家族化や高齢化のため、家庭、職場に被爆者が少なく、原爆や平和について語り合う場が少なくなっています。

そこで集まってもらったのが、被爆者代表として当協会の継承部育成班6名と被爆体験のない大人代表の30代から50代の社会人5名、そして青少年代表18名のピースボランティアです。

家庭に置き換えるとおじいちゃんおばあちゃんの世代とお父さん世代、そして子ども達といったひとつの家庭のような構成になります。まず最初に、お互いが打ち解ける



ためのゲームを行いました。「血液型が同じ人」などの条件でグループを作って、事前に書いておいた名刺カードを使いながら自己紹介をします。互いに話が盛り上がりつつ

て司会者の声も聞こえないほど。こういったレクレーションゲームが入るところもピースボランティア活動の特徴といえます。さあ、お互い知り合ったところで、いよいよ今回のテーマ、世代間トークです。どんな話が出てくるのでしょうか。



原爆の話だけでなくいろいろと話題がひろがったようです。
(1班で出た意見から)
・自衛隊派遣について、ひとりひとりが考える環境になかった。このような話し合う機会がないのだろうか。
(2班で出た意見から)

・被爆者は修学旅行生にしか伝えられないので、これから若い人たちにがんばってほしい。
(3班で出た意見から)
・「平和」とは何だと思う？
↓戦争がないこと、思いやり、他人

のことを考えること、差別がないこと。
(4班で出た意見から)

・原爆や平和だけでなく、「死」について深く教えていくことが異常な事件が起こっている現在、その抑止につながるのでは。

それぞれに本音をぶつけ、深く考えることができたようです。

積極的に平和について学んでいる青少年ピースボランティア。

他にも高校生1万人署名など、長崎では青少年の平和活動は活発に行われています。

これからは青少年だけでなく、私たちみんなが平和を考えていく必要性があるのではないのでしょうか。



青少年ピースボランティアは毎月の活動のほか、こんな事をやっています

青少年ピースフォーラム

長崎市を訪れる全国の平和使節団（主に中学生）と地元長崎の青少年の交流の場で、平和に関する身近な問題を話し合う補助をします。

国連軍縮週間「市民のつどい」

10月24日（国連創設の日）からの1週間は、軍縮のための世論を高める「国連軍縮週間」です。原爆犠牲者慰霊・世界平和祈念市民大行進や平和推進協会が開催する市民のつどいに参加します。

参加希望、お問い合わせは 長崎市平和推進室 095-844-9923 橋、山本まで

現在、長崎平和推進協会継承部会には三十九名の方が在籍し、長崎を訪れた修学旅行生に被爆体験を語っています。

協会には講話を聞いた、たくさんの子どもたちから感想文が送られてきます。その中から、昨年、下平作江さんの講話を聞いた中学生、小島由里奈さんの感想文が全国中学生人権作文コンテストで入賞されましたので、今回はその作品を紹介いたします。

平成15年度

全国中学生人権作文コンテスト 京都大会佳作入賞

『平和と命』

長岡京市立長岡第四中学校 三年 小島由里奈さん

二〇〇三年、五月二十五日。私は修学旅行で長崎に行きました。

長崎は広島のように昭和二十年、八月九日十一時二分にアメリカによつ

て原子爆弾が落とされた町です。

(中略)

私は修学旅行のときに語り部、下平さんの講話を聞きました。すつこくすつこくなまましいおはなしでした。(中略) いろんなたくさんの貴重な体験を下平さんは私たちに涙ながらに一生懸命伝えて下さいました。私はそのお話を聞いてとてももらかったです。でも下平さんはもつと私達よりつらかったと思います。私はそんな下平さんの気持ちを無駄にしたくない!と思いました。

長崎の原爆資料館を見学して、とてもたくさんの原爆や戦争に関する資料を見ました。(中略) その場所にいるだけで戦争のおそろしさとかがすごい伝わってきてとても怖かったです。

でも私たちは実際に戦争を身をもって体験したわけではありません。テレビや写真の中からしか感じる事ができません。それは、今日本が戦争をしていないからでもあります、戦争のことを現代の人が知らないからだと思います。いくら終戦記念日があつても、平和公園があつても残酷な写真とかがあつても、下平さんが私たちにつらい思いをしなが

ら一生懸命に伝えてくれたことがあつても、戦争を理解し、死者を敬う気持ちがなければ意味がないのです。

(中略)

こんなことを私が言える立場ではありませんがもつともつと日本人は戦争の実態にマジメに向き合っていないべきだと思います。そうじゃないと私たちが生きている、五十年後六十年後にもまた同じことが起きてしまうかもしれない!!そして戦争に関係のないたくさんの尊い命がまた失われるかもしれません。

広島でその後何十万羽の折鶴が集まったことは、それだけ平和を大切にしようと思つた気持ちを持った人が、日本にはとつてもたくさんいるということだと思います。これはとてもすごいことだと思います。

毎日、毎日今地球上では戦争がお

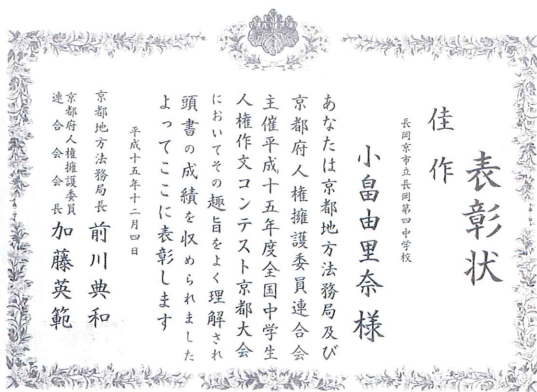


こつています。戦争によつてたくさんの尊い命が失われているのです。

(中略)

戦争が世界からなくなる日は簡単には来ません。でも生きている私たちが戦争によつて深い消えることのない傷を負つた人たち、死んでしまつた人たちの意思、思いを受け継いで、一日も早く世界から戦争をなくしたいと思います!

昔のあやまちは、もう二度と繰り返さない!犠牲になつた人たちの分まで、私たちは、しっかりと生きていかなければいけないのです。今あるこの命を大切にして、生きることの喜びを感じ生きること、そして、日本だけじゃなく世界が平和になるように...



表彰状

佳作

小島由里奈様

あなたは京都地方事務局及び京都府人権擁護委員連合会主催平成十五年度全国中学生人権作文コンテスト京都大会においてその趣旨をよく理解され頭書の成績を収められましたよつてここに表彰します

平成十五年十二月四日

京都地方事務局長 前川典和
京都府人権擁護委員連合会会長 長加藤英範

設立20周年行事に800人が参加

去る、2月16日(月)本協会設立20周年を記念して、舞台やテレビ等で活躍中の、長崎市出身美輪明宏さんを招き、「愛と平和の祈りをこめて」と題して講演会を開催しました。おりからの春を思わせる好天にも恵まれ、会員をはじめ、500席限定に3千名という高倍率の中を当選した多くのファンも駆けつけて、会場となった長崎市平和会館ホールは2階席まで満席となり、講師の美輪さんも日頃の辛口トークに加え、自作の長崎の歌を披露してくれるなど、予定の時間をオーバーして多くの声援に応えてくれました。



ラウンジコンサートのお知らせ

平和推進協会・音楽部会

日ごろは、九州交響楽団の一員として活躍中の奏者を迎え、国立追悼平和祈念館の交流ラウンジにおいて弦楽四重奏とオーボエによる「春のラウンジコンサート」をお届けします。会員の皆様はもちろんのこと、多くの市民の参加をお待ちいたします。

開催日時

3月27日(土) 午後2時開演

開催場所

国立長崎原爆死没者追悼平和祈念館交流ラウンジ

演奏曲目

ダイベルティメントK136
モーツァルト
弦楽四重奏曲「セレナーデ」
ハイドン

「タミーと独身貴族」より「タミー」
レイ・エバンス

そのほか、「どこかで春が」、「ラストダンスは私と」、「真珠採り」など広く知られた8曲が演奏されます。

演奏者

第1バイオリン 八尋祐子
第2バイオリン 中嶋純子
ヴィオラ 中村はるみ
チェロ 八尋清太
オーボエ 大倉安幸

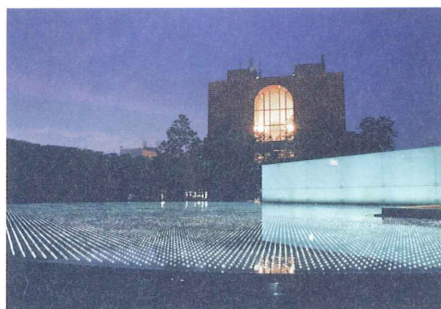
※コンサート参加・入館料は無料です。

国立追悼平和祈念館 都市景観賞を受賞

平和の新しい顔に

長崎は観光の街であると共に「平和を祈る街」でもあります。

祈念館は昨年12月に長崎市より都市景観賞を受賞し、新しい長崎の顔として知られるようになりました。都市景観賞は長崎の歴史や自然などを生かし、街並に調和した建物などに贈られる賞であり、この度、祈念館の静寂なおもむきと周囲の環境に配慮した建築であるという理由によって受賞しました。原爆死没者名簿を中心に据えて、数多くの遺族の方々や観光客の追悼の場となっている祈念館は、長崎の新しい名所になるとともに平和の象徴となりました。入場無料ですのでぜひ、この機会に祈念館の透明度の高い追悼空間と重厚な回廊、そして緑に囲まれた水盤をご覧ください。



雲仙岳災害記念館を見学して

大淵 映美子

昨年十二月、原爆資料館展示ガイドの研修の一つとして島原市にある雲仙岳災害記念館（がまだすドーム）を訪れました。この記念館では、九〇年十一月十七日、百九十八年ぶりに噴火した雲仙・普賢岳の様子が様々な手法で展示されており、火山体験学習施設として自然の脅威を疑似体験できます。なかでも火砕流、土石

流をドーム型スクリーンで再現した平成大噴火シアターは見る者を圧倒する迫力があり、猛威を振るった火山の恐ろしさをつぶさに感じる事ができます。この災害では計四十四名の尊い命が犠牲になりました。まだ皆様のご記憶にも新しいと思います。自然災害、人的災害と形こそ異なりますが、長崎でも原爆の投下により非常にたくさんの方が亡くなられました。今回の研修を通じて、被害にあわれた方々が体験された現実を少しでも多くのお客様に正確に伝えていくことの大切さを改めて実感致しました。いまだ勉強不足の面もありますが、「原爆の恐ろしさ」そして「平和の大切さ」をどれだけお客様

の心に訴えていけるのか、今一度確認する良い機会を与えていただきました、ありがとうございます。

展示ガイド雲仙研修の感想

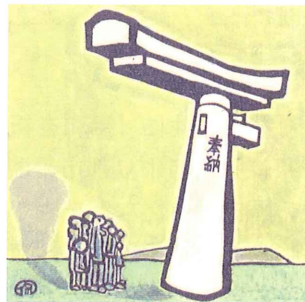
田中 陸美

原爆資料館の展示ガイドになって3カ月。来館者の接し方、展示物の案内にも慣れてきた12月初めの晴れた日、13名の仲間とアテンダントの方達のガイドを研修するために雲仙岳災害記念館を訪れました。

平成2年11月に噴火し、あれから13年。噴火による火災流・土石流で甚大な被害を受けたにも関わらず、今なお復興に向けてたゆまぬ努力が続く島原・深江の町並みは、原爆投下後の長崎と重なるものがありました。雲仙岳災害記念館のアテンダントの方達のガイドはきびきびしていて大変分かりやすい説明でしたが、雲仙岳災害は来館者の記憶にまだ新しく、いつ身近な自然災害としてとらえやすいところがあり、特に詳しく説明しなくても自然の脅威・教訓が伝わってくるようでした。

反対に原爆資料館ガイドは風化しつつある戦争・原爆の愚かさ、悲惨さを、戦争を知らない世代は勿論、

あらゆる世代の来館者に映像・遺構を通して実相を伝える難しさがあるようです。平和の大切さを感じていただけるよう、展示内容に精通する



新しい協会グッズが誕生しました

◎小崎侃 版画絵はがき

「ナガサキ・祈りの丘」
・十枚入り 350円
(税込)

原爆資料館出口のスロープに展示している十枚の小崎侃氏の版画が絵はがきになりました。

これまでも商品化への問い合わせが多く寄せられていましたが、小崎侃氏の協力を得て、そのような声にお応えできるようになりました。

崩壊した浦上天主堂や、十一時二分で止まった時計、原子野を走る救援列車など、写真とは違う版画から

ことは勿論ですが、来館者の邪魔にならない、心配りのできるガイドのと初心に返った一日でした。

伝わる『原爆』を考えさせられる絵はがきです。



◎原爆被爆記録写真集

・A4版 153頁
・一、〇〇〇円 (税込)

本書は、原爆当時に撮影された写真を集めた写真集です。写真の他に、原爆の被害状況なども記載されており、日本語、英語で表示してあります。

【書籍等のご購入について】

書籍販売では郵送での販売も行ってまいります。お気軽にお問い合わせ下さい。

(財)長崎平和推進協会

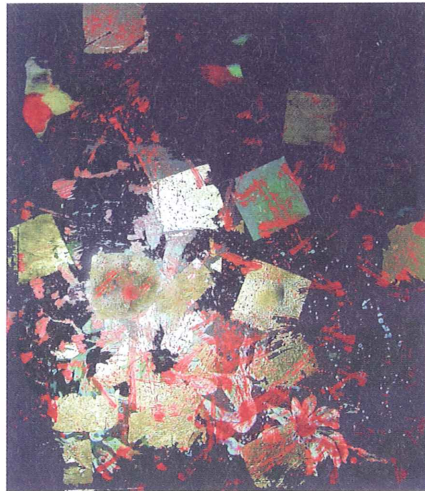
書籍販売コーナー

電話・FAX (095) 84210580

E-mail: net@peace-wing-n.or.jp

プレゼント 8・9 展出展作の紹介

「未来への伝言」 (油絵)
 山下 昭子 (長崎市油木町47)
 子どもたちの未来が平和であり
 ますように、国を超えて友情と
 相互理解を伝えていきたい



「きのご雲の下では・・・」 (水彩)
 岸本 悦子 (長崎市南町7-41)
 私は小学3年の時、満州から引き上げて
 きました。被爆体験のない私には原爆は
 描けないと思っていた。しかし「ノーモ
 ア長崎」を次世代への思いは強く絵筆を
 とりました。

長崎原爆資料館の無料入館について

本協会の入会案内のチラシで「原爆資料館」への無料入館についてお知らせいた
 しましたが、3月2日から開かれる長崎市議会において長崎市民の観覧料減免に
 ついて審議され、承認が得られると、平成16年10月1日から平成19年9月30日迄
 の3年間、長崎市民は無料で見学ができるようになります。

初	立	眠	産	授	種	散	再	議
	□		□	□	□	□	□	□
	風		績		合		広	知
個	達	脈	旧	開	辞	密	白	
	□		□	□	□	□	公	
	工		場		白		神	長
	新	先	渡	白	類	神	□	□
高	□		□	□	目		□	□
	倒						□	□
							□	□

〈100号の答え〉 世界平和はみんなの **ねがい**



パズルでグッズプレゼント!

今回は漢字穴埋めパズルです。真ん中の口には、左右、上下
 のどちらからも2文字熟語ができるような漢字が入ります。
 パズルを解いて出た漢字を並び替え、今の季節にあつた3文
 字熟語を3つ作ってください。
 正解者の中から5名様に推進協オリジナル携帯ストラップをプ
 レゼント!

クイズの答え

〈応募方法〉 締め切り 4月15日
 官製はがきに、クイズの答えと住所、氏名、電話番号を
 記入の上 〒852-8117 長崎市平野町7-8
 (財)長崎平和推進協会「へいわ」101号プレゼント係
 までお送りください。抽選で5名様に推進協オリジナル
 携帯ストラップをプレゼントします。なお、当選者の発表
 は商品の発送をもってかえさせていただきます。

平和案内人を育成します

原爆投下後五十八年が経過し、被爆者も高齢化してきており、原爆の実相について語ることでできる方がこれからますます少なくなっていくことが懸念されています。

本協会の継承部会員（三十九名）

についても、平均年齢七十歳を超えており、どのようにして被爆体験を後代に継承していくのか、検討を行ってきました。

そこで、本協会では、平成十六年度から、観光客や地元長崎の人たちの原爆や平和に対する理解を深め、

さらに被爆建造物、追悼平和祈念館、原爆資料館などの案内ができる人材

（「平和案内人」）を育成し、被爆者とともに。被爆の実相を広く後世へ伝えていくこととしております。

半年ほどの育成講座を行い、秋頃から被爆建造物の案内など活動を開始する予定です。

平和案内人が被爆者の継承活動と連携し、より多くの人に原爆の実相を伝えていければと考えています。

事業の詳細など、今後の会報にて紹介していきたいと思えます。

賛助会員のご紹介

協会の趣旨に賛同していただいている賛助会員のうち、公益法人及び会社関係をご紹介させていただきます。

ご支援、まことにありがとうございます。

（財）長崎YMCA、（財）長崎YWCA、（財）長崎県地域婦人団体連絡協議会、（財）長崎原子爆弾被害者対策協議会、（社）長崎青年会議所、（社）長崎青年協会、（財）広島国際文化財団、（社会福祉法人）恵みの丘長崎原爆ホーム、（社会福祉法人）原爆被爆者特別養護ホームかめだけ

（株）イシマル、（株）エビス堂、（株）オーケーエンタープライズ、（株）西海建設、（株）昭和堂、（株）親和銀行、（株）十八銀行、（株）事務機のミカドヤ、（株）田川産業、（株）大和総業、（株）テレビ長崎、（株）長崎消毒社、（株）ナガサキフォトサービス、（株）フジオカ、（株）藤木博英社、（有）事務機のタケダ、（有）出島印刷所、（有）ナカノコーポレーション、（有）パークサイドホテル、NBC情報システム（株）、秋山商事、扇精光（株）、（株）オリエンタルビル管理、（株）エイヴィワン、（株）一広、（株）

インテックス、（株）コブチ、（株）シンコー、光仁会病院、サンコー（株）、ジョンソンコントロールズ（株）、（株）全日警長崎支社、ソーニーマーケティング（株）、B&P営業2部九州営業所、太平ビルサービス（株）長崎支社、高山オフセット印刷所、反田商事（株）、テアトロ長崎、長崎県映画センター、長崎スチール家具販売（株）、長崎石油プロパン（株）、ダイヤモンドスタッフ（株）、長崎電子計算センター（株）、長崎放送（株）、西鉄旅行（株）長崎支店、日本空調サービス（株）九州支店、日本紙工印刷（株）、日本通運長崎支店、平和堂オフセット印刷（有）、ホテルニュー長崎、丸美産業（株）、長崎衛生公社（株）、九州労働金庫、大長崎農協、長崎観光特産品協同組合、長崎市役所職員生活協同組合（順不同）

ーご寄付ありがとうございましたー

（敬称略）
中村清（三千元）、川原竹一（三千元）、片桐正臣（二万円）

会員数報告

維持会員 一、四一八名
賛助会員 一三三件（団体会含）
臨時会員 八名

合計 一、五五八名

平成十六年一月三十一日現在

追悼平和祈念館

初の外国人遺影登録

去る、1月7日（水）、国立長崎原爆死没者追悼平和祈念館に外国人原爆死没者の遺影登録申し込みがありました。

登録者は、第2次世界大戦中、長崎県内の炭鉱に強制連行され、1945年8月9日の長崎原爆で被爆した中国人の倪瑞峰さん（当時30才）です。

市民団体「長崎の中国人強制連行の真相を調査する会」を介して申し込みがありました。

広島での祈念館でもアメリカ人死没者などの数人の外国人死没者が登録されており、長崎の祈念館としては、初めて外国人死没者の登録がなされたことになり、たいへん喜ばしいことだと思っています。

祈念館としては、今後もより多くの方に登録していただけるよう積極的に広報を行って行きたいと考えております。